

2022年度 帰国生選抜 「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験作品利用
日本画			
油画	対象の観察力やデッサン力、画材の扱い、構成力などの基礎的な力量を見極める。配置されたコート掛けや洋服、帽子などのモチーフをどう描くかを見ることによって、ものの捉え方や発想力、独創性が表現されているかを問うた。	実技試験では、モチーフからなにを感じ取り、表現したか、提出作品については制作の意図などを聞き、今後の研究への意欲や日本語のコミュニケーション能力などを確かめ、総合的に判断した。	●
版画			
彫刻			
工芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。	なぜ本学の工芸学科を選んだのか、そして何を学びたいのか。将来の展望等について熱意と説得力のある答えを望む。同時に、実技試験を終った感想を話してもらって、本人の制作についての考え方や取り組み方を確認したい。また、面接の受け答えと小論文によって、本学での学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。	●
グラフィックデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 理解力 問題の把握、理解が正しいか 伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか 発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか 描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか 個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか 	<ul style="list-style-type: none"> 入学志望理由が明確であるか 授業への取り組みの意欲があるか 	×
プロダクトデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 理解力=問題の把握、理解が適切か 発想力=アイデアが優れているか 独創性=他にないアイデアか 実現力=アイデア具体化方法の知識があるか 表現力=アイデアが伝わる表現か 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に必要な対話力があるか 本専攻の内容を理解しているか 本専攻への入学意図は明確か 自分の意見を述べられるか 学習意欲が感じられるか 	×
テキストスタイルデザイン			
環境デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的な造形力、および基礎的なデッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	本学科の授業を理解できるだけの日本語能力があるか。多摩美術大学、また本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。日本での教育から離れていたことが、本学一般入試の受験にあたって著しく不利になっているかどうか。	●
情報デザインメディア芸術コース	限られた試験時間の中で、その場での発想力や構成力と、基本的な描写力を総合して評価する。本年度は「手」と「透明アクリルキューブ」の対比(身体と人工物)をどのように表現しているかが出題のねらいである。この対比に着目したアイデアや構図の斬新さがあるか？質感の違いが描き分けられているか？モチーフとして配布した4cm幅の透明アクリル立方体のサイズを正確に描かれているか？アクリルキューブから透過して見える複雑な反射や歪みなどの表現も評価のポイントにした。	何故メディア芸術コースを選択したのか？入学後にどのような事を学び、どのような創作をしたいのか？卒業後に希望している目標など、明確な自分の意思を持ち、それを言語化して質疑応答が出来るか という点がポイントとなる。	×
情報デザイン情報デザインコース	手とモチーフの鉛筆デッサンを通じて下記の評価を行なった。 <ul style="list-style-type: none"> 【観察】対象の形や機能を正確に捉え認識できるか 【明確】光を捉え陰影を鉛筆で明度として表現できているか 【質感】モチーフと手の質感の違いを描き分けられているか 【空間】遠近感を意識して立体感のある画面づくりができているか 【構成】鑑賞者を意識した構図選びができているか 	<p>面接のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己アピールなどプレゼンテーション力があるか 日本語でのコミュニケーション能力があるか プレゼンテーションにおいて、作品の制作の意図・過程・結果・価値を説明できるか 入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか 情報デザインの分野の専門性を理解しているか 	×
芸術			
統合デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 理解力=問題の把握・理解が正しいか 観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか 発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか 描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか 視点=対象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか 	<ul style="list-style-type: none"> 入学志望理由が明確であるか 本学科の内容を理解しているか 授業に必要な対話力・語学力はあるか 授業への取り組みの意欲があるか 	×
演劇舞踊デザイン演劇舞踊コース			
演劇舞踊デザイン劇場美術デザインコース	単に置かれたモチーフを観察し正確にデッサンするだけではありません。基礎的なデッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。情景を想定するという事は、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。今回は、コピータイムを連想させるモチーフが出題されています。そこから発想した個性豊かな表現を期待しています。近年、大胆な構図や独自の発想が増加しています。しかし素材感を表現できていないもの、雑な描き方の回答は評価が低くなります。光の捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。	面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したものまで幅広いラインナップが望ましいです。作品解説において、明かなコンセプトとそれを実現するための表現を的確に説明出来ているかを評価の基準としています。また、決められた時間内に説明ができるかも重要な要素です。説明や質疑応答時に、的確な返答ができるか、この学科への志望動機や目指したい夢・目標が明確かなども重要です。	●

全学科共通小論文

問「公共性と創造」について、あなたの考えを述べなさい。(800字程度)

1980年代からのグローバリゼーションによる世界各国での消費社会の中で、「個人」と芸術の関係に関心がもたれてきました。ですが、21世紀に入ってからこじばらくの間に、そうした「個人」よりも、かつてのモダニズムの時代のような「社会と芸術の関係」が再び問われはじめています。建築で言えば住民参加がこれにあたるのですが、ここではそれを「市民と社会に開かれた芸術」と捉え、世界各地で学んで日本に帰国した受験生に、その問題を問いかけたのが設問の狙いです。